

## 令和3年度 学校評価アンケート結果分析

### 1 保護者、学校運営協議会委員対象アンケート

- ・33問の質問すべてで、肯定的な回答の割合が70%以上であった。(前年度同様)
- ・教育方針、教員の愛情や熱意、信頼、児童生徒の生き生きとした活動等、学校教育の重要な内容に関しては、90%以上が肯定的な高い評価を得られている。  
(質問1、2、16、19、31)
- ・「わからない」という割合が20%以上の質問は5項目であった。(保護者のみ2項目)  
21「学校の先生は働き方改革に努めている」(前年度比-2.9%)  
24「学校の授業は、児童一人一人に合った教材教具が準備されている。」(+17.6%)  
26「いじめの未然防止・早期発見」(+15.7%)  
27「個別の教育支援計画」(+11.8%)  
29「進路指導において地域企業、福祉施設等連携のうえ就労支援」(+15.7%)
- ・「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の割合が30%以上の質問はなかった。10%以上の質問は4項目であった。  
5「相談しやすい雰囲気」(13.7% 保護者のみ11.8%)  
6「いろいろな人との交流」(17.6% 保護者のみ0%)  
7「教育目標や指導内容の保護者(地域)への発信」(11.8% 保護者のみ5.9%)  
8「自己評価の保護者(地域)への発信」(15.7% 保護者のみ5.9%)

### 2 生徒対象アンケート

- ・88.7%が肯定的な回答であり、概ね良好な結果となっている。
- ・「そう思わない」は10%ほどあるので、その項目について改善を図る必要がある。
- ・「学校の先生は、生徒の気持ちや様子を詳しく知っている」という質問では、「わからない」という回答が25%みられる。この理由についてさらに分析する必要がある。

### 3 考察と課題

- ・保護者・学校評議員の回収率は98%で、昨年度より15%増加した。
- ・19の教員の社会人としての資質を問う質問については前年度より13.7%増加している。日頃の保護者や来校者への対応が好感を得ていると考えられる。
- ・「わからない」の割合の多い項目については以下の課題が考えられる。  
21:「働き方改革」については直接保護者に伝わりにくい。  
24、27: 授業参観・懇談等が十分でなかった。  
26: 個別の事例については家庭と連携できたが、アンケート調査や職員研修など学校として取り組んでいるいじめ対策について保護者への周知が十分でなかった。  
29: 小中学部での割合が高い。保護者も含めて小中学部からのキャリア教育が重要である。
- ・5~8の質問に対する「あてはまらない」の回答については、感染症対策の影響もあるが、発信方法に工夫が必要である。